資料１－１

埼玉県地域医療構想
病床機能報告データ等を用いた医療提供体制分析

埼玉県　保健医療部　保健医療政策課

目的

客観的な基準により地域の医療機能の現状を分析し、各医療機関が、自機関の立ち位置を確認し、地域で医療機能の分化と連携を議論するための「目安」を提供する。

＜病床機能報告の４機能＞

- **主観的**な区分
  ―各医療機関の自主的な選択

異なる

＜地域医療構想の４機能＞

- **客観的**な区分
  ―医療資源投入量に応じた区分

【地域医療構想調整会議の委員からの意見】
・医療機能の捉え方は各病院によって差がある
・報告上の機能と実際の機能が異なり、構想に関する議論が困難。
・本来は国で客観的な基準を示すべきであるが、県独自でも検討するべき。

各医療機関の自主的な判断により報告された内容を尊重しつつ、別の観点として、算定している入院料や具体的な医療提供状況から客観的な基準を作成し、「４機能」が指す具体的な内容について、共通認識を持ちやすくする。

なお、基準は「絶対の閾値」ではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。

第1章　客観的指標を用いた医療機能区分の設定

機能区分の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

４機能	大区分					
	主に成人		周産期	小児		緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	一般病棟 有床診療所の一般病床 地域包括ケア病棟	MFICU NICU GCU	PICU	小児入院医療管理料1	
急性期			産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の一般病棟7:1		緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所		
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等					緩和ケア病棟 (放射線治療なし)

区分線1

区分線2

切り分け

具体的な機能に応じて区分線を引く

機能区分の基準の観点

① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。

② 区分線1のしきい値は、救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。

③ 区分線2のしきい値は、一般病棟7：1の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。

④ 区分線1・2を設定した結果、高度急性期・急性期・回復期の1日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在（2013年）の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病棟の病床数」も大きく変わる。
区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。

高度急性期・急性期の区分（区分線1）の指標

○救命救急やICU等において、特に多く提供されている医療

- A：【手術】全身麻酔下手術
- B：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C：【がん】悪性腫瘍手術
- D：【脳卒中】超急性期脳卒中加算
- E：【脳卒中】脳血管内手術
- F：【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術（※）
- G：【救急】救急搬送診療料
- H：【救急】救急医療に係る諸項目（☆）
- I：【救急】重症患者への対応に係る諸項目（☆）
- J：【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目（☆）

※…診療報酬上の入院料ではなくデータから特定がしにくいCCUへの置き換えができなかったこと、経皮的冠動脈形成術の算定が一般病棟7:1よりもICU等に集中していることによる。

☆…病床機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

高度急性期・急性期の区分（区分線1）のしきい値

○A～Jのいずれかを満たす病棟の割合は、救命救急・ICU等で92.5%（全県）

区分線1で高度急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	救命・ICU	一般病棟7:1（※）	一般病棟7:1以外（※）	有床診の一般病床（※）	地域包括ケア病棟
手術	A	全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	40.0%	1.7%	0.0%	2.6%	0.0%
手術	B	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	17.5%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
がん	C	悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	22.5%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%
脳卒中	D	超急性期脳卒中加算	あり	あり	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	算定不可
脳卒中	E	脳血管内手術	あり	あり	21.3%	1.7%	0.6%	0.0%	0.0%
心血管疾患	F	経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	27.5%	2.8%	1.7%	1.3%	0.0%
救急	G	救急搬送診療料	あり	あり	7.5%	1.7%	0.0%	0.0%	算定不可
救急	H	救急医療に係る諸項目（下記の合計） ・救命のための気管内挿管　・カウンターショック ・体表面・食道ペーシング法　・心膜穿刺 ・非開胸的心マッサージ　・食道圧迫止血チューブ挿入法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	66.3%	3.1%	2.8%	2.6%	0.0%
救急	I	重症患者への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的肺動脈圧測定　・頭蓋内圧持続測定(3時間超) ・持続緩徐式血液濾過　・人工心肺 ・大動脈バルーンパンピング法　・血漿交換療法 ・経皮的心肺補助法　・吸着式血液浄化法 ・人工心臓　・血球成分除去療法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	48.8%	2.3%	0.6%	0.0%	0.0%
全身管理	J	全身管理への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的動脈圧測定(1時間超)　・胸腔穿刺 ・ドレーン法　・人工呼吸(5時間超)	8.0回/月・床以上	320回/月以上	46.3%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
上記A～Jのうち1つ以上を満たす					92.5%	16.8%	4.0%	6.4%	0.0%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

平成28年度病床機能報告のデータから作成

急性期・回復期の区分（区分線2）の指標

○一般病棟7：1において多く提供されている医療

- K：【手術】手術
- L：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M：【がん】放射線治療
- N：【がん】化学療法
- O：【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

- P：【重症度、医療・看護必要度】
  基準（「A得点2点以上かつB得点3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」）を満たす患者割合

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数等を指標に用い、しきい値を設定。

急性期・回復期の区分（区分線2）のしきい値

〇K～Pのいずれかを満たす病棟・有床診療所の割合は、産科・小児科を除く一般病棟7:1で76.4%、10:1で49.1%、有床診で25.6%。（全県）

区分線2で急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	一般病棟7:1（※）	一般病棟10:1（※）	その他一般病棟（※）	有床診の一般病床（※）	地域包括ケア病棟
手術	K	手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	10.2%	2.7%	6.0%	21.8%	0.0%
	L	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.1回/月・床以上	4回/月以上	17.6%	10.0%	0.0%	1.3%	0.0%
がん	M	放射線治療（レセプト枚数）	0.1回/枚・床以上	4枚/月以上	9.7%	2.7%	0.0%	0.0%	算定不可
	N	化学療法	1.0回/月・床以上	40回/月以上	17.3%	0.9%	1.5%	2.6%	0.0%
救急	O	予定外の救急医療入院の人数	10人/年・床以上	33.3人/月以上	17.3%	13.6%	6.0%	0.0%	0.0%
重症度等	P	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者割合	25%以上	25%以上	57.1%	38.2%	3.0%	0.0%	7.7%
上記K～Pのうち1つ以上を満たす					76.4%	49.1%	16.4%	25.6%	7.7%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

平成28年度病床機能報告のデータから作成

機能区分の適用結果（東部圏域）

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計			東部圏域			備考
			該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	733床	61.9%	10病棟	69床	73.6%	
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,852床	79.1%	9病棟	319床	72.9%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	292病棟	12,713床	78.1%	46病棟	2,047床	78.2%	
		回復期	257病棟	9,968床	65.3%	36病棟	1,315床	75.3%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,737床	86.5%	11病棟	503床	94.9%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	2,027床	89.5%	13病棟	594床	90.4%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,837床	88.9%	15病棟	660床	86.3%	
	介護療養病床	慢性期	12病棟	587床	87.2%	3病棟	154床	84.2%	
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	581床	96.2%	1病棟	5床	24.2%	
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,550床	67.9%	9病棟	233床	61.4%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病棟	116床	79.4%	0病棟	0床		医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病棟	723床	46.7%	4病棟	163床	47.1%	
		回復期	3病棟	87床	70.5%	1病棟	40床	91.9%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	97床	63.6%	0病棟	0床		放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	6病棟	99床	65.3%	1病棟	14床	67.5%	

4機能ごとに集計

4機能区分	埼玉県計			東部圏域				
	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	各医療機関が報告した病床数（H28病床機能報告）	2025年の必要病床数（地域医療構想）
高度急性期　計	180病棟	4,282床	78.5%	20病棟	393床	72.4%	156床	831床
急性期　計	376病棟	15,083床	75.5%	59病棟	2,443床	74.6%	4,312床	2,783床
回復期　計	320病棟	12,792床	69.9%	48病棟	1,858床	81.0%	878床	2,734床
慢性期　計	209病棟	9,550床	88.7%	32病棟	1,422床	87.6%	1,901床	2,587床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	27病棟	318床	14.4%	2病棟	11床	5.7%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	—	—	217床	—
合計等	1,112病棟	42,025床	76.6%	161病棟	6,127床	79.3%	7,464床	8,935床

注：「合計等」欄の許可病床数（埼玉県計=42025床、東部圏域=6127床）の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式１と様式２とが突合しない等の事由から、分析対象に含められない病床がある（埼玉県計=8347床、東部圏域=1337床）。

（参考）各医療機関の報告上の機能

（高度急性期：10床　急性期：463床　回復期：261床　慢性期：387床　休棟：154床　未報告：62床）

平成28年度病床機能報告のデータから作成

機能区分の適用結果（大区分×4機能別に整理）（東部圏域）

4機能	大区分				
	主に成人		周産期	小児	緩和ケア
高度急性期	救命救急・ICU等 69床・73.6%	区分線1以上 319床・72.9%	MFICU・NICU・GCU 5床・24.2%	小児入院医療管理料1 0床・—%	
急性期	区分線1～2の間 2047床・78.2%		産科の一般病棟 産科の有床診療所 233床・61.4%	小児入院医療管理料2・3 小児科の一般病棟7:1 163床・47.1%	緩和ケア病棟 (放射線治療あり) 0床・—%
回復期	回復期 リハビリ病棟 503床・94.9%	区分線2以下 1315床・75.3%		小児入院医療管理料4・5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所 40床・91.9%	
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等 1408床・87.8%				緩和ケア病棟 (放射線治療なし) 14床・67.5%

…産科・小児科を除く一般病棟、有床診療所の一般病床、地域包括ケア病棟

※各欄、左側の数字が許可病床数、右側の数字が病床稼働率を示す。

平成28年度病床機能報告のデータから作成

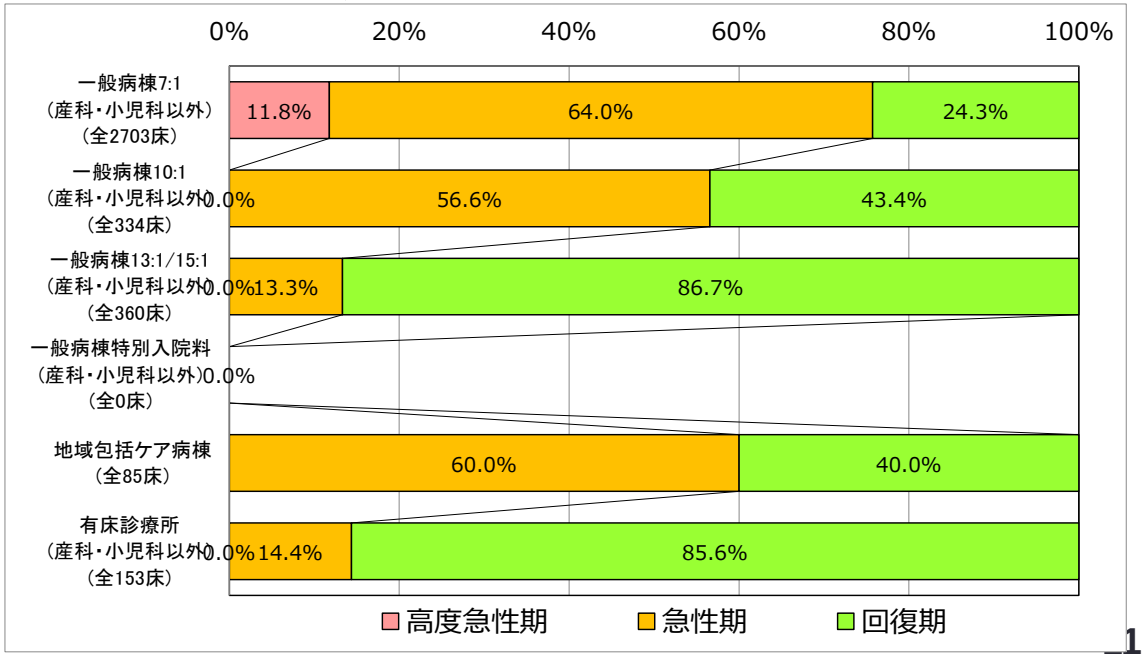
機能区分の適用結果（入院料との関係）（東部圏域）

4機能	大区分				
	主に成人		周産期	小児	緩和ケア
高度急性期	救命救急・ICU等 69床・73.6%	区分線1以上 319床・72.9%	MFICU・NICU・GCU 5床・24.2%	小児入院医療管理料1 0床・—%	
急性期	区分線1～2の間 2047床・78.2%		産科の一般病棟 産科の有床診療所 233床・61.4%	小児入院医療管理料2・3 小児科の一般病棟7:1 163床・47.1%	緩和ケア病棟 (放射線治療あり) 0床・—%
回復期	回復期 リハビリ病棟 503床・94.9%	区分線2以下 1315床・75.3%		小児入院医療管理料4・5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所 40床・91.9%	
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等 1408床・87.8%				緩和ケア病棟 (放射線治療なし) 14床・67.5%

…産科・小児科を除く一般病棟、有床診療所の一般病床、地域包括ケア病棟

※各欄、左側の数字が許可病床数、右側の数字が病床稼働率を示す。

区分線1・区分線2による区分の対象とした薄黄色部分について、入院料別の区分結果をみる



平成28年度病床機能報告のデータから作成

第2章　回復期の病床の類型化・具体化

回復期の類型化・具体化

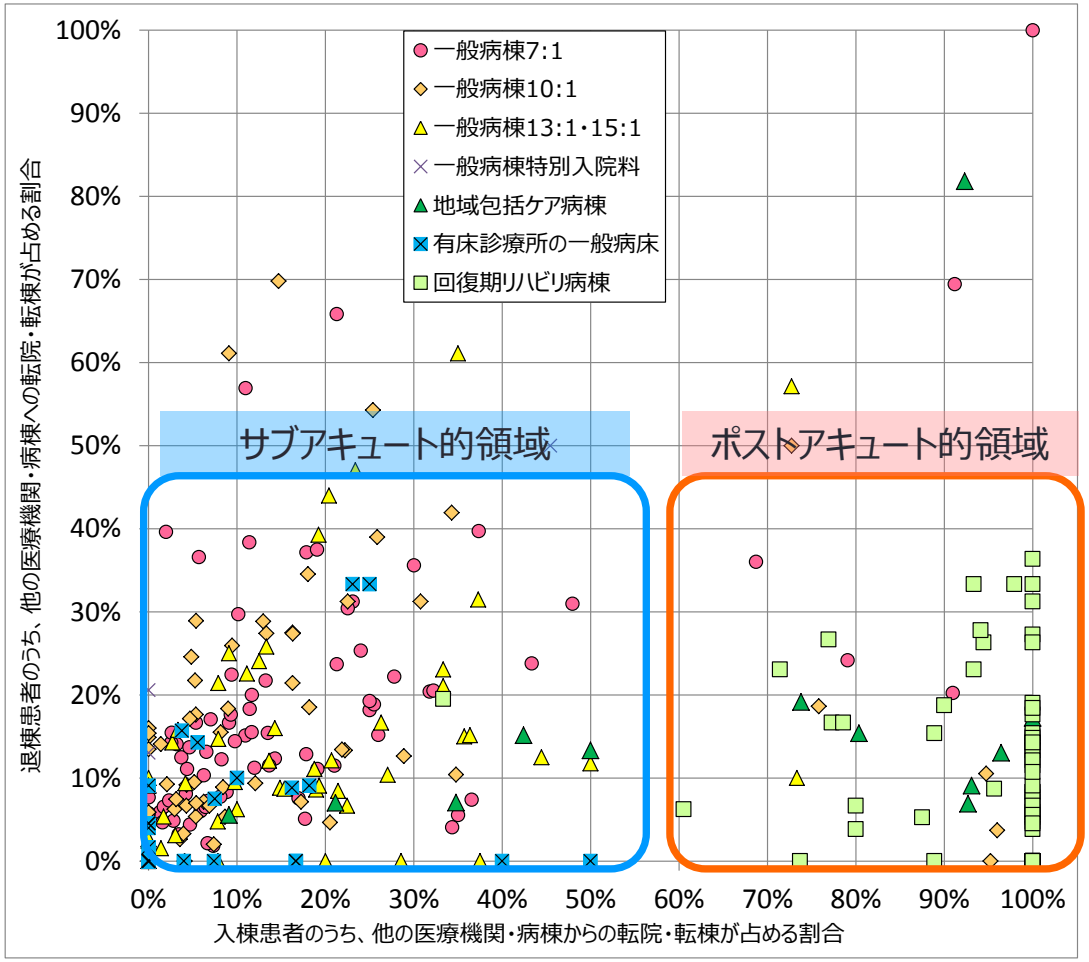
- 高度急性期と急性期の区分（**区分線1**）、急性期と回復期の区分（**区分線2**）は、急性期的な機能に関する基準設定

⇒**多様な形態を含むと考えられる回復期の病棟**について、さらに診療科や入退棟の流れ等に応じた、**更なる機能の類型化・具体化**

４機能	大区分					
	主に成人		周産期	小児		緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	一般病棟 有床診療所の一般病床 地域包括ケア病棟 区分線1	MFICU NICU GCU	PICU	小児入院医療管理料1	
急性期		区分線2	産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の一般病棟7:1		緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所		
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等					緩和ケア病棟 (放射線治療なし)

どのようなバリエーションがあるか

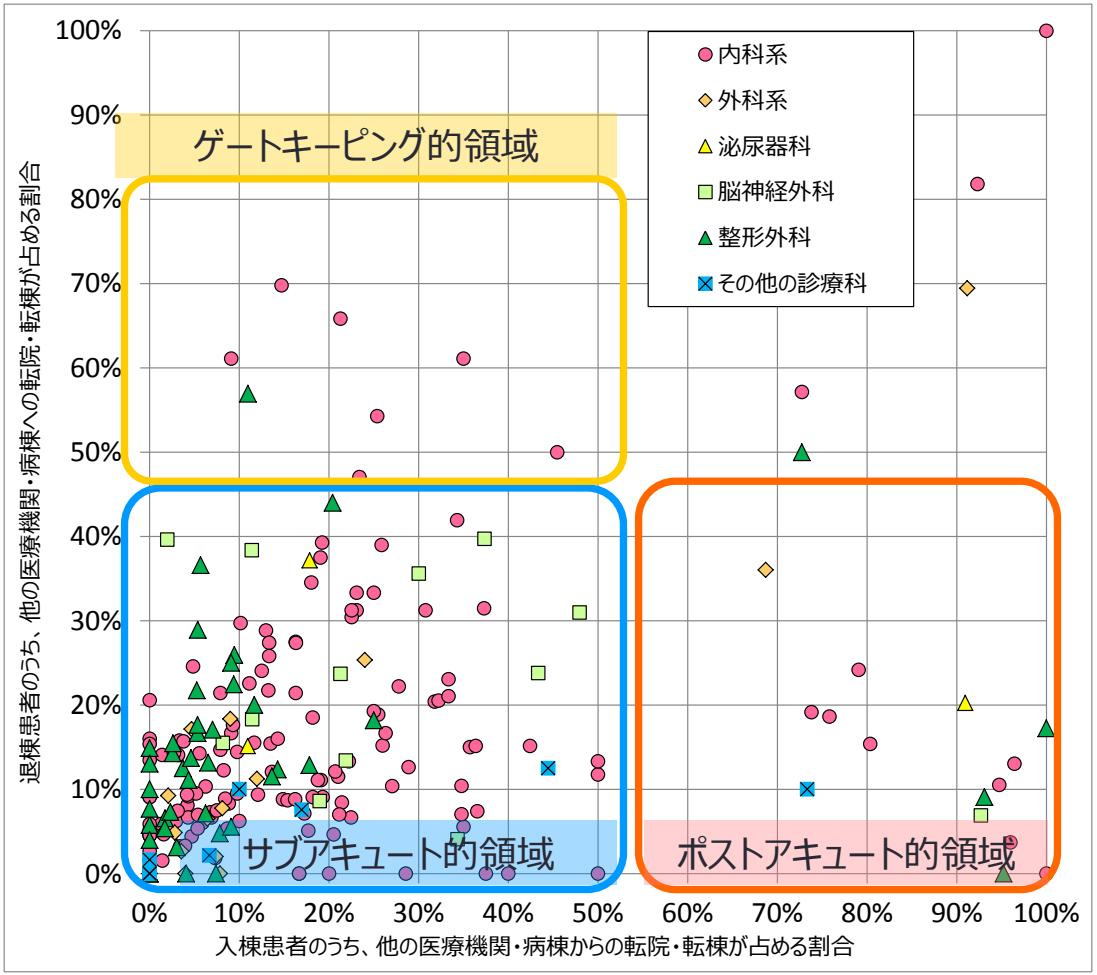
回復期の病棟における入退棟の流れ（入院料別、小児科除く）（全県）



平成28年度病床機能報告のデータから作成

- 全般に、医療機関以外（家庭・施設等）への退院が多い
- 回復期リハビリ病棟は、他の病院・病棟からの転院・転棟が多い
  ⇒ポストアキュート的機能
- 一般病棟・有床診の病床は、医療機関以外（家庭・施設等）からの入院が多い
  ⇒サブアキュート的機能
- 地域包括ケア病棟は、ポストアキュート的機能からサブアキュート的機能にまたがる

回復期の病棟における入退棟の流れ（診療科別、回復期リハビリ病棟・小児科除く）（全県）



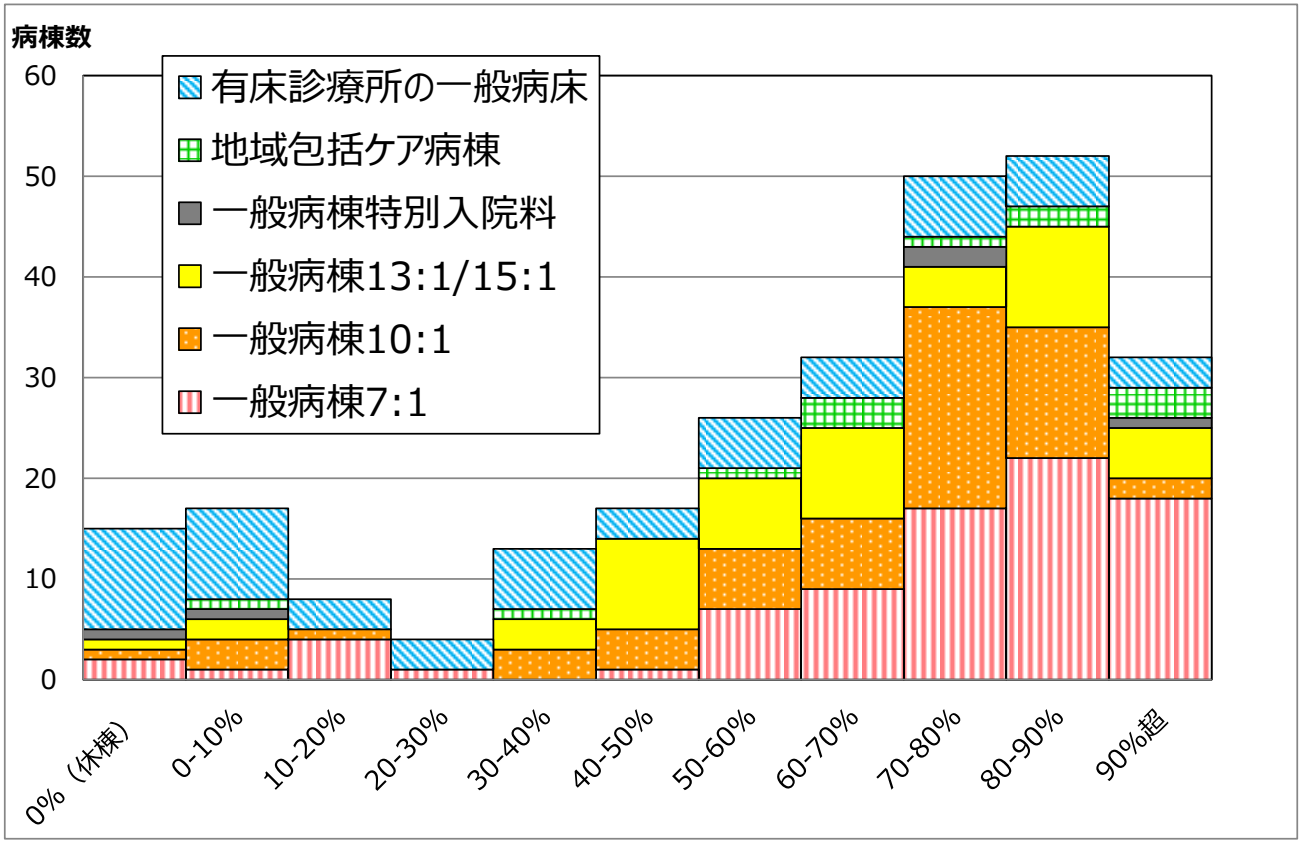
平成28年度病床機能報告のデータから作成

- 内科系・整形外科・脳神経外科の病棟が大半を占める
- 整形外科・脳神経外科の病棟の大半は、家庭・施設等からの入院、家庭・施設等への退院が多い
  ⇒サブアキュート的機能
- 内科系の病棟は、サブアキュート的機能の病棟が多いが、他の病院・病棟からの入院・入棟が多い（ポストアキュート的機能の）病棟や、他の病院・病棟への転院・退棟が多い（ゲートキーピング的機能の）病棟もみられる

回復期の病棟の稼働率の分布
（入院料別、回復期リハビリ病棟・小児科除く）（全県）

○病棟数ベースでは稼働率70～90%にピークがあるが、70%以下の病棟・有床診も多い

○一般病棟のうち、看護配置の少ない病棟ほど、稼働率が低い傾向にある（7:1＞10:1＞13:1・15:1）



平成28年度病床機能報告のデータから作成

第3章　圏域内の医療提供状況（別紙）

■検討の視点

視点1：同一入院基本料を算定している病棟間での病床利用率のばらつき

- 病棟間の病床利用率における「最大値」と「最小値」の差が大きい入院基本料を検討。
- 病床利用率が低い値を取らざるを得ない病棟機能に関する検討。
- 病床利用率の観点から、構想区域として求められる新たな病床機能の検討。

視点２：幅広い手術を提供している病棟の状況

- 手術、全身麻酔を提供している一般病棟10:1、13対1、15対1、有床診療所一般病床が果たしている医療機能に関する検討。
- 手術を提供していない一般病棟10:1、13対1、15対1、有床診療所一般病床における機能強化の方向性に関する検討。

視点３－１：地域におけるがん治療を提供している病棟の状況

- 構想区域内において悪性腫瘍手術、放射線治療、化学療法を提供している病棟の有無に関する検討
- 構想区域内において悪性腫瘍手術実施率の低い病棟の役割に関する検討。
- 一般病棟7対1以外で化学療法を提供する病棟の状況に関する検討。

■検討の視点（つづき）

視点３－２：地域における脳卒中の治療を提供している病棟の状況

- 構想区域内において超急性期脳卒中加算、脳血管内手術を提供している病棟の有無に関する検討
- 構想区域内において超急性期脳卒中加算、脳血管内手術を提供している病棟間の実施率の違いに関する検討。

視点３－３：地域における心筋梗塞の治療を提供している病棟の状況

- 構想区域内において経皮的冠動脈形成術を提供している病棟の有無に関する検討
- 構想区域内においてを経皮的冠動脈形成術を提供している病棟間の実施率の違いに関する検討。

視点４：在宅患者の緊急入院診療を提供している病棟の状況

- 構想区域内において在宅患者の緊急入院診療を提供している病棟の有無に関する検討
- 在宅患者の緊急入院診療を提供している病棟における、構想区域として求められる新たな医療機能の検討。

■検討の視点（つづき）

視点５：全身管理を実施している病棟の状況

- 構想区域内において継続的に全身管理を必要としている患者の療養先に関する検討（例：一般病棟13対1、15対1、地域包括ケア病棟および医療療養病棟　等）
- 地域包括ケア病棟における全身管理を必要としている患者の受け入れ状況の検討（在宅医療との連携を想定）。

視点６：疾患に応じたリハ・早期からのリハを実施している病棟の状況

- 構想区域内における、（心大血管疾患リハ）、脳血管疾患リハ、廃用症候群リハ、運動期リハ、呼吸器リハ、がん患者リハおよび認知症患者リハを提供している病棟に関する検討。
- 構想区域として求められる、一般病棟10対1、一般病棟13対1、15対1および地域包括ケア病棟等におけるリハビリテーションの提供に関する検討。

参考資料

平成28年度病床機能報告のデータセット

- 第1章・第2章では、平成28年度病床機能報告のうち、主に病棟単位のデータを使用
- データは「報告様式1-③病棟票」と「報告様式2-②病棟票」とに分かれるため、両者を突合してデータセットを作成

A：報告様式1-③

- 4機能の選択
- 病床数
- 算定入院料
- 病棟部門の職員数
- 入退棟の状況
- 分娩件数　　など

※有床診療所は「報告様式1」

突合

B：報告様式2-②

- 入院料の算定回数
- 手術の実施状況
- がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況
- 重症患者への対応状況
- 救急医療の実施状況
- 在宅復帰への支援状況
- 全身管理の状況
- 疾患別リハビリの実施状況　など

平成28年度病床機能報告のデータセット

- 報告様式1と様式2との突合結果（全県）

	医療施設数			病棟数	許可病床数（病床機能報告における現在の機能別）					
	病院	有床診	計	（※3）	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答	合計
☆ 報告対象医療機関	**293施設**	**205施設**	**498施設**							**50372床**
【参考】 医療施設動態調査による数	293施設	223施設	516施設							50503床
報告様式１（※1)の報告あり	285施設	179施設	464施設	1285棟	6707床	24073床	4396床	12507床	718床	48401床
全体（☆）に占める割合	97.3%	87.3%	93.2%	—	—	—	—	—	—	96.1%
様式1のうち 様式2と突合できなかったもの				173棟	115床	2497床	775床	2692床	297床	6376床
報告様式２（※2)の報告あり	253施設	147施設	400施設	1147棟						
全体（☆）に占める割合	86.3%	71.7%	80.3%	—						
様式1と様式2との突合ができたもの	**251施設**	**142施設**	**393施設**	**1112棟**	**6592床**	**21576床**	**3621床**	**9815床**	**421床**	**42025床**
全体（☆）に占める割合	**85.7%**	**69.3%**	**78.9%**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**83.4%**

※1…病院については報告様式1のうち③病棟票の報告があるもの、有床診療所については報告様式1（有床診療所用）の報告があるもの。
※2…報告様式2（病院・有床診療所共通）のうち②病棟票の報告があるもの。
※3…有床診療所については、1施設を1病棟としてカウントした。

機能区分の適用結果（全県）

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	733床	61.9%	
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,852床	79.1%	**区分線1・区分線2**によって高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	292病棟	12,713床	78.1%	
		回復期	257病棟	9,968床	65.3%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,737床	86.5%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	2,027床	89.5%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,837床	88.9%	
	介護療養病床	慢性期	12病棟	587床	87.2%	
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	581床	96.2%	
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,550床	67.9%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病棟	116床	79.4%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病棟	723床	46.7%	
		回復期	3病棟	87床	70.5%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	97床	63.6%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	6病棟	99床	65.3%	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	許可病床数	病床稼働率	平成28年度病床機能報告において各医療機関が報告した病床数	地域医療構想における2025年の必要病床数
高度急性期　計	180病棟	4,282床	78.5%	6,707床	5,528床
急性期　計	376病棟	15,083床	75.5%	24,118床	17,954床
回復期　計	320病棟	12,792床	69.9%	4,437床	16,717床
慢性期　計	209病棟	9,550床	88.7%	12,965床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	27病棟	318床	14.4%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	2,145床	—
合計等	1,112病棟	42,025床	76.6%	50,372床	54,210床

注：表の42,025床の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式１と様式２とが突合しない等の事由から、分析対象に含められない病床が8,347床ある。

平成28年度病床機能報告、埼玉県地域医療構想のデータから作成

機能区分の適用結果（大区分×4機能別に整理）（全県）

４機能	大区分				
	主に成人		周産期	小児	緩和ケア
高度急性期	救命救急・ICU等 733床、61.9%	区分線1以上 2852床、79.1%	MFICU・NICU・GCU 581床、96.2%	小児入院医療管理料1 116床、79.4%	
急性期	区分線1～2の間 12713床、78.1%		産科の一般病棟 産科の有床診療所 1,550床、67.9%	小児入院医療管理料2・3 小児科の一般病棟7:1 723床、46.7%	緩和ケア病棟 (放射線治療あり) 97床、63.6%
回復期	回復期 リハビリ病棟 2737床、86.5%	区分線2以下 9968床、65.3%		小児入院医療管理料4・5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所 87床、70.5%	
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等 9451床、89.0%				緩和ケア病棟 (放射線治療なし) 99床、65.3%

…産科・小児科を除く一般病棟、有床診療所の一般病床、地域包括ケア病棟

※各欄、左側の数字が許可病床数、右側の数字が病床稼働率を示す。

平成28年度病床機能報告のデータから作成

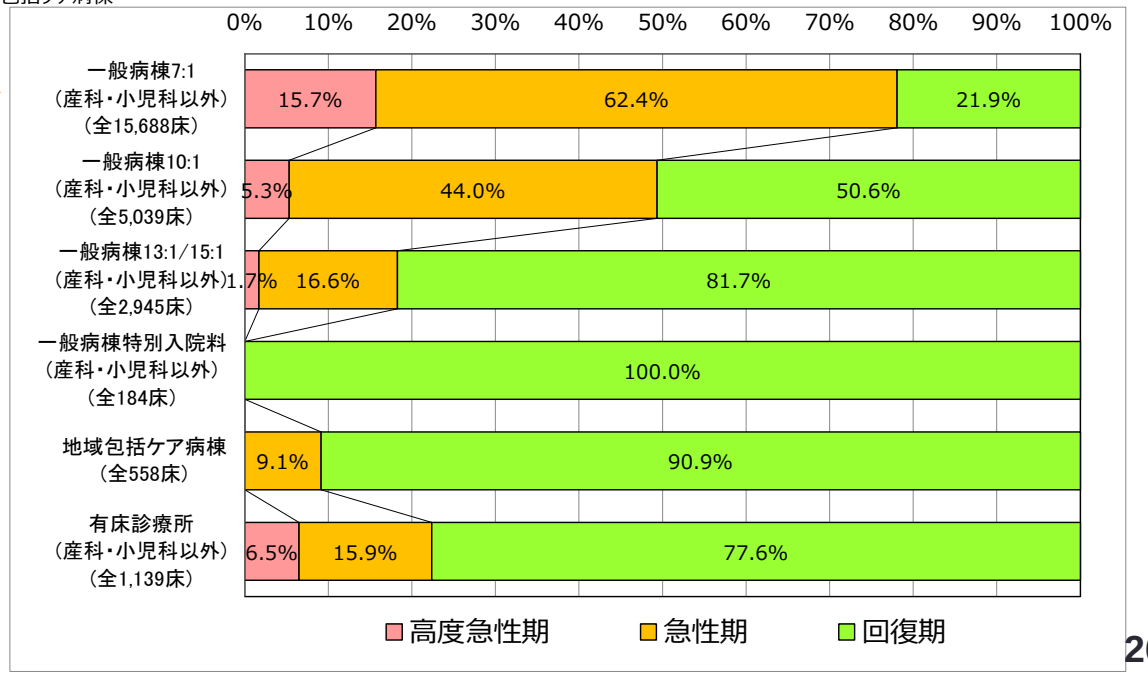
機能区分の適用結果（入院料との関係）（全県）

4機能	大区分				
	主に成人		周産期	小児	緩和ケア
高度急性期	救命救急・ICU等 733床、61.9%	区分線1以上 2852床、79.1%	MFICU・NICU・GCU 581床、96.2%	小児入院医療管理料1 116床、79.4%	
急性期	区分線1～2の間 12713床、78.1%		産科の一般病棟 産科の有床診療所 1,550床、67.9%	小児入院医療管理料2・3 小児科の一般病棟7:1 723床、46.7%	緩和ケア病棟 (放射線治療あり) 97床、63.6%
回復期	回復期 リハビリ病棟 2737床、86.5%	区分線2以下 9968床、65.3%		小児入院医療管理料4・5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所 87床、70.5%	
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等 9451床、89.0%				緩和ケア病棟 (放射線治療なし) 99床、65.3%

…産科・小児科を除く一般病棟、有床診療所の一般病床、地域包括ケア病棟

※各欄、左側の数字が許可病床数、右側の数字が病床稼働率を示す。

区分線1・区分線2による区分の対象とした薄黄色部分について、入院料別の区分結果をみる



平成28年度病床機能報告のデータから作成

機能区分の適用結果（地域医療構想との比較）（全県）

○地域医療構想による2013年現在の1日当たり入院患者数と比べ、おおむね4機能区分の構成はほぼ同程度。地域医療構想における「日々の患者を単位とした機能区分」と、ほぼ同水準の区分となっているものと考えられる

○地域医療構想が想定する病床稼働率と比べ、回復期の稼働率の低さが目立つ

- ◆うち回復期リハビリ病棟の稼働率　…86.5%
- ◆うち産科・小児科を除く一般病棟・有床診・地域包括ケア病棟の稼働率　…**65.3%**
- ◆うち小児科の一般病棟・有床診の稼働率　…70.5%

	1日当たり入院患者数		病床稼働率	
	地域医療構想の2013年現在値	今回の区分結果	地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	3,543人/日	3,362人/日	75.0%	78.5%
急性期	10,625人/日	11,386人/日	78.0%	75.5%
回復期	10,701人/日	8,939人/日	90.0%	69.9%
慢性期	10,942人/日	8,472人/日	92.0%	88.7%
不明	—	46人/日	—	14.4%
合計	35,811人/日	32,205人/日	—	76.6%

回復期の内訳	病床稼働率
うち回復期リハビリテーション病棟	86.5%
うち産科・小児科を除く一般病棟/有床診/地域包括ケア病棟	65.3%
うち小児科の一般病棟・有床診	70.5%

平成28年度病床機能報告のデータから作成

機能区分の適用結果（各圏域）

＜1日当たり入院患者数＞

大区分	入院料・診療科	4機能区分	南部	南西部	東部	さいたま	県央	川越比企	西部	利根	北部	秩父	埼玉県計
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	40人/日	23人/日	51人/日	89人/日	35人/日	40人/日	119人/日	23人/日	35人/日	0人/日	454人/日
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	201人/日	319人/日	233人/日	517人/日	213人/日	217人/日	238人/日	148人/日	122人/日	50人/日	2,257人/日
		急性期	1,235人/日	606人/日	1,601人/日	1,627人/日	774人/日	1,409人/日	1,106人/日	729人/日	702人/日	144人/日	9,935人/日
		回復期	644人/日	382人/日	990人/日	792人/日	459人/日	764人/日	1,020人/日	704人/日	636人/日	120人/日	6,511人/日
	回復期リハビリ病棟	回復期	247人/日	161人/日	477人/日	224人/日	178人/日	399人/日	372人/日	184人/日	91人/日	33人/日	2,367人/日
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	36人/日	282人/日	537人/日	179人/日	61人/日	179人/日	270人/日	147人/日	70人/日	53人/日	1,814人/日
	医療療養病床	慢性期	429人/日	353人/日	570人/日	453人/日	571人/日	1,312人/日	1,112人/日	347人/日	711人/日	224人/日	6,081人/日
	介護療養病床	慢性期	94人/日	58人/日	130人/日	0人/日	0人/日	55人/日	176人/日	0人/日	0人/日	0人/日	512人/日
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	76人/日	17人/日	1人/日	129人/日	25人/日	310人/日	0人/日	0人/日	0人/日	0人/日	559人/日
	産科の一般病床	急性期	146人/日	29人/日	143人/日	105人/日	76人/日	95人/日	189人/日	98人/日	171人/日	0人/日	1,052人/日
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	23人/日	0人/日	0人/日	0人/日	0人/日	69人/日	0人/日	0人/日	0人/日	0人/日	92人/日
		急性期	35人/日	21人/日	77人/日	97人/日	44人/日	0人/日	41人/日	6人/日	16人/日	0人/日	337人/日
		回復期	0人/日	0人/日	37人/日	0人/日	0人/日	0人/日	17人/日	0人/日	8人/日	0人/日	61人/日
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	15人/日	0人/日	0人/日	14人/日	33人/日	0人/日	0人/日	0人/日	0人/日	0人/日	62人/日
		慢性期	13人/日	0人/日	9人/日	0人/日	12人/日	15人/日	8人/日	7人/日	0人/日	0人/日	65人/日
高度急性期　計			340人/日	358人/日	285人/日	734人/日	273人/日	637人/日	357人/日	171人/日	157人/日	50人/日	3,362人/日
急性期　計			1,432人/日	657人/日	1,821人/日	1,843人/日	926人/日	1,504人/日	1,337人/日	833人/日	889人/日	144人/日	11,386人/日
回復期　計			891人/日	543人/日	1,504人/日	1,016人/日	637人/日	1,163人/日	1,409人/日	887人/日	735人/日	154人/日	8,939人/日
慢性期　計			571人/日	693人/日	1,246人/日	631人/日	645人/日	1,561人/日	1,565人/日	501人/日	781人/日	277人/日	8,472人/日
不明			0人/日	0人/日	1人/日	4人/日	0人/日	2人/日	26人/日	3人/日	0人/日	9人/日	46人/日
合計			3,235人/日	2,251人/日	4,857人/日	4,230人/日	2,481人/日	4,866人/日	4,694人/日	2,396人/日	2,562人/日	634人/日	32,205人/日

＜許可病床数＞

大区分	入院料・診療科	4機能区分	南部	南西部	東部	さいたま	県央	川越比企	西部	利根	北部	秩父	埼玉県計
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	60床	40床	69床	119床	64床	112床	149床	38床	82床	0床	733床
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	311床	403床	319床	612床	250床	281床	261床	213床	150床	52床	2,852床
		急性期	1,571床	744床	2,047床	1,942床	957床	1,873床	1,411床	991床	991床	186床	12,713床
		回復期	899床	798床	1,315床	1,239床	679床	1,138床	1,609床	1,101床	1,050床	140床	9,968床
	回復期リハビリ病棟	回復期	262床	222床	503床	262床	207床	447床	409床	287床	98床	40床	2,737床
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	42床	308床	594床	192床	82床	204床	300床	166床	79床	60床	2,027床
	医療療養病床	慢性期	516床	373床	660床	511床	627床	1,417床	1,254床	395床	792床	292床	6,837床
	介護療養病床	慢性期	96床	72床	154床	0床	0床	61床	204床	0床	0床	0床	587床
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	70床	18床	5床	163床	11床	314床	0床	0床	0床	0床	581床
	産科の一般病床	急性期	185床	109床	233床	157床	76床	151床	243床	108床	288床	0床	1,550床
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	28床	0床	0床	0床	0床	88床	0床	0床	0床	0床	116床
		急性期	50床	67床	163床	180床	64床	0床	76床	80床	43床	0床	723床
		回復期	0床	0床	40床	0床	0床	0床	28床	0床	19床	0床	87床
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	18床	0床	0床	22床	57床	0床	0床	0床	0床	0床	97床
		慢性期	24床	0床	14床	0床	15床	20床	8床	18床	0床	0床	99床
高度急性期　計			469床	461床	393床	894床	325床	795床	410床	251床	232床	52床	4,282床
急性期　計			1,824床	920床	2,443床	2,301床	1,154床	2,024床	1,730床	1,179床	1,322床	186床	15,083床
回復期　計			1,161床	1,020床	1,858床	1,501床	886床	1,585床	2,046床	1,388床	1,167床	180床	12,792床
慢性期　計			678床	753床	1,422床	703床	724床	1,702床	1,766床	579床	871床	352床	9,550床
不明			18床	1床	11床	78床	42床	35床	69床	10床	40床	14床	318床
合計			4,150床	3,155床	6,127床	5,477床	3,131床	6,141床	6,021床	3,407床	3,632床	784床	42,025床

注：表の42,025床の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式１と様式２とが突合しない等の事由から、分析対象に含められない病床が8,347床ある。

平成28年度病床機能報告のデータから作成